

南極観測50周年記念事業委員会発会総会議事録

開催日時:平成17年5月27日 15時～17時

開催場所:国立極地研究所6階講堂

参加者:約50名

議事

1. 議長選出

準備委員会の佐藤夏雄(極地研)幹事が進行を務める。本総会の議長を選出するにあたり、渡辺興亜氏より推薦があり、国分征氏が選出された。

2. 南極観測50周年記念事業について

村山準備委員会委員長から総会開催に当たって挨拶があった。マナスル登山から南極と出会うまで、隊長永田武、越冬隊長西堀栄三郎、朝日新聞矢田喜美雄記者、文部省岡野澄学術課長、鳥居鉄也氏との出会い、文部省が決定してから4年4ヶ月の異例の速さで1956年11月8日、宗谷が出港した。来る来年の2006年11月8日を記念日とし、南極50周年記念事業に向けて、準備をしていきたい。

3. 準備委員会の検討経過報告

議長に選出された国分氏から1昨年の6月に村山雅美他長老OBが集まり、50周年記念事業の準備会合が開かれて来た旨の報告があった。一時は、記念日は1957年1月29日という意見もあったが、1956年11月8日が一番ふさわしいのではないかという事で一致した。以降、準備委員会を開いて、これまでの歴史的な事柄を考えつつ、記念祝賀会、記念講演会、出版事業、記念品などについて話し合ってきた。本委員会の発足にあたり、記念事業計画を正式に決めていただき、事業を進めていきたい。

3.1. 記念祝賀会について

平山善吉氏から来年の11月8日を記念日として、事業を開催することになった経過の報告があった。参加者は観測隊OB、宗谷乗組員他を想定している。他には海上自衛隊関係者や南極観測実施に当たって世話になった政治家、文部省関係者、企業関係者などである。記念祝賀会は来年の南極観測隊の壮行会を兼ねる。400～500名が参加すること

になろう。現在のところ、会場は赤坂プリンスホテルを考えている。当日、観測

船「宗谷」に集合し、開会式典を催すことも考えたい。

懇親会等のスケジュールは10時頃に「船の科学館」に集合し、文部科学大臣あたりから祝辞をいただくことを計画している。

三田安則氏から先日船の科学館から2名の方と打ち合わせをし、宗谷での見学の計画については東京海洋大学の山口征矢氏を中心に準備ができていた旨の説明があった。川口貞男氏から祝賀会の会場については、赤坂プリンスホテルは当時の隊員の壮行会に使っていたこともあり、いい案だという意見をいただいた。

3.2. 記念講演会について

渡辺興亜氏から来年の9月頃から地方各地で講演会を実施していくという案が計画中である旨の報告があった。昨年、南極OB会が発足し、その折に南極50周年記念事業にもOB会としての賛同をいただいた。OB会の支部を作って活動して頂きたいということをお願いしたところ、各地域で自主的な南極OB会の設立の動きが出てきている。原則として経費はその地方で負担していただきたいところであるが、検討事項であろう。

木崎甲子郎氏から、沖縄でもOB会を作ることについては賛成で、誰が居るのかを知りたいと発言があり、これに対してOB会の名簿が改正中であり、出来次第、対応する旨川口南極OB会運営委員長から応答された。

3.3. 出版事業について

柴田鉄治氏から当然公式の50年史が出るであろうから、他に一般に売れるような面白い本を書くことも考えてみた。我々が書くことになろうが、人間臭さのある外史を書くことになろう。まだまだ今は表に出されていない歴史的事実があるのではないかと、南極観測外史的な内容となろう。もうひとつは写真集及び100人の執筆による南極物語を考えている。

神沼氏から次の世代につながるような効果のあるイベント、たとえば漫画などを描いてもらうことはどうかなどの意見があった。柴田氏は書く人がいれば考えられるのではないかと、昔、科学博物館居られた楠先生が漫画に登場したことがあったが、そのようなこともあってもよいのでないかのやりとりがあった。

3.4. 記念品について

佐野雅史氏から記念品について検討中であるが、文部科学省の統合推進本部では、南極観測50周年の記念切手を作る案が出てきているようだ。また、大瀬氏が25次隊まで作成した観測隊の全員集合の写真を新たに更新して作る案も検討されている。また、南極カレンダーに使われた写真で特別の写真集を作ること

も考えている。記念コインの発行という案もあるのではないかと。他に、昭和基地の歴史をCD-ROMによる写真集として纏める案も検討されている。ただOBはCDを使う機会が少ないのではないかなどの意見があった。

4. 国立極地研究所の対応について

藤井副所長から50周年に関する極地研の対応は企画準備委員会が立ち上がったところであるという報告があった。今後1ヶ月ぐらいで、ブレインストーミング的に検討して、早急に委員会として立ち上げを進めていきたい。OB会の企画、本部の企画との連携をとっていかなくてはならないので、そのことについては相談させていただきたい。南極観測統合推進本部としては祝賀会のようなものおよび「50年史」などが検討されている。本部が実施する事業については文部科学省が予算を考えている。

国分議長からOB会は本部が1月29日に祝賀会をやるという前提の下で準備しているので、その点は本部との調整をお願いしたいと発言があった。

5. その他

村山会長より、南極ツアーが盛んに議論されているが、今後、この50年記念として、子供を南極に派遣するということは考えられないかと意見があった。これに対して、国分議長はこれまでも議論はあったが、実際上は難しいのではないかと。また、渡辺氏はOB会や他の委員会が発議して、本部を説得することによってはまだ、可能性がなくなった訳でなく、将来的には考えていくべきものであらうと発言があった。